



トキかわら版



環境省
Ministry of the Environment

佐渡自然保護官事務所
TEL : 0259-22-3372

令和7年1月8日・第148号



新年の訪れとともに、本格的な冬がやってきました。今日も佐渡では、吹き付ける雪やあられに負けず懸命に餌を探すトキの姿が見られています。

羽色変化が始まりました



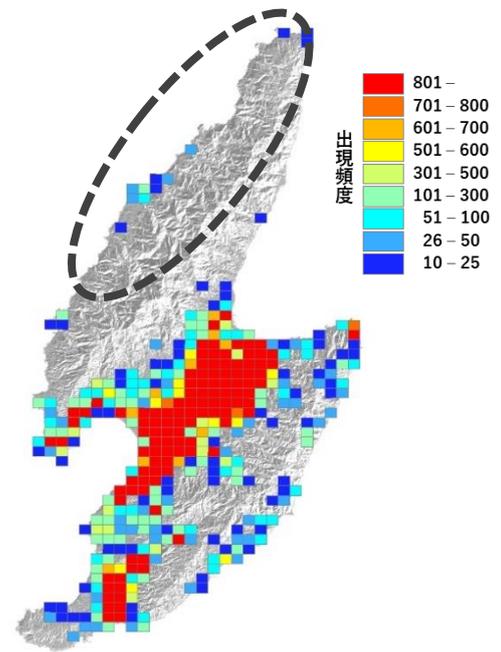
羽が黒くなったトキ

今年もトキの「羽色変化」が確認されました。頭から首、背中にかけての羽を黒く変色させるもので、繁殖期が近づくにつれて段々と黒色が濃くなっていきます。これは黒い羽が生えてくるのではなく、自身から分泌される黒い物質を羽に塗りつけることで着色しています。田んぼや木の上にいるトキを観察してみると、頭を背中にこすりつける様子を見ることができます。今の時期にしか見られない行動や薄い灰色のトキを、観察してみてはいかがでしょうか。

2024年のトキ野生復帰事業を振り返って

2024年は野生下に生息するトキの推定個体数が532羽（2023年12月末時点）となり、これまで増加傾向にあった個体数が、初めて横ばいとなる推測結果になりました。この原因の1つとして、佐渡島内の平野部にトキの生息が集中し、密度が高くなることで繁殖などに問題が生じている可能性が考えられました。

これを受け、2024年はトキの生息数が少ない大佐渡地域（右図の黒丸）にて放鳥を実施しました。さらに、秋の放鳥では北田野浦地区の棚田に仮設ケージを設置させていただき、ここで約2週間トキを飼育してから放鳥する方法を試行しました。放鳥地となった地域の住民の皆さまのご理解とご協力があり、初挑戦であった大佐渡地域での2回の放鳥を安全に終えることができました。あらためて、心より御礼申し上げます。



2008年から2023年までの佐渡島内のトキの確認状況



飛翔するトキ

また、2024年は国際的なトキの会合が催されたり、8年ぶりに中国へトキを返還したりと、国際関係においても重要な年となりました。加えて、本州での放鳥に向けた取組も着々と進んでいます。

トキ野生復帰を推進すべく、2025年も職員一同精進してまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

求む！トキ目撃情報

野生下のトキの個体数増加に伴いトキの分布域が拡大しています。佐渡島内でも、これまでトキが見られていなかった場所や、棚田、奥まった農地など、モニタリングチームの目が届かない場所も多くあります。また、佐渡島から本州に飛来する個体も増加し、新潟県内を始め、北陸地方や東北地方の広い範囲でトキの飛来が確認されています。このような地域では、皆様からの目撃情報が非常に重要なデータになります。「うちの田んぼにいつも来てるけど、もう皆知っているだろう」「トキだと思ったけどあまり自信がない」「こんな情報、役に立たないかも」なんて思わず、ぜひ情報をお寄せください！



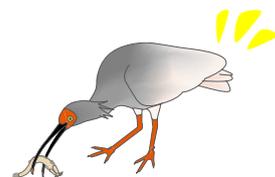
お電話で

0120-980-551



インターネットで

トキ目撃情報



佐渡自然保護官事務所からのお知らせ



◆洋洋の剥製を公開しています

12月18日より、新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里にて開催中の冬期特別展「トキとくらししていくために」と合わせ、一昨年(2021年)の11月にこの世を去ったトキ「洋洋」の剥製と骨格標本を展示しています。この機会にぜひご覧ください。



期間：令和7年2月9日（日）まで

場所：新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里
(新潟県新発田市藤塚浜海老池)

※開館時間等の詳細は、当該施設のHPをご覧ください

<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/aicho/>

◆佐渡自然保護官事務所公式SNSで、トキの最新情報を発信中！

公式SNSでは、野生下のトキに関する情報を発信しています。[X \(旧Twitter\)](#)ではトキの動きやイベントなどの情報をリアルタイムにお届けし、[Facebook](#)ではモニタリング中に会ったトキの様子を多くの写真とともに発信中です。また、[YouTube](#)ではトキの行動や、佐渡自然保護官事務所が作成した普及啓発のための映像を公開しています。トキかわら版には載せきれないトキ情報が盛りだくさんの公式SNSをのぞいてみてください。

読み取りはこちらから！



X



Facebook



YouTube

トキの
みかた

- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。(ただし、通行の妨げにならないようにしましょう)
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期(2月～6月)は、巣に近付かないようにしましょう。





トキかわら版



環境省
Ministry of the Environment

佐渡自然保護官事務所
TEL : 0259-22-3372

令和7年2月3日・第149号

曇り空の日が多く気分も落ち込みがちな季節ですが、朱鷺色の翼をはためかせるトキの姿を見かけると、なんだか良い日になる気がしてきます。



佐渡島内のトキの動き（2025年1月）



雪が積もった田んぼで餌を探すトキ

寒波の訪れとともに佐渡にも雪が降り、トキの餌場となる田んぼに雪が積もる日もしばしば。そんな時でも、ふゆみずたんぼや田んぼの中の轍（わだち）、水が湧き出している場所、水路などの雪が積もらない場所を探し当て、餌となる生きものを探すトキの姿が観察されています。また、田んぼに溜まった水に入り、水浴びをしながら頭を背中にこすりつける様子も見られます。うすい灰色だったトキの羽も日に日に色濃くなり、繁殖期に向けた準備が進んでいるようです。

トピック ～ トキの鳴き声を聞いてみよう～

カラスに似ているとも言われるトキの鳴き声。他の鳥類と同じように、トキも状況に応じて様々な鳴き声を発します。今回は、モニタリング中によく聞こえてくる鳴き声をご紹介します。



1. ねぐら出の鳴き声：「コッ、コッ、コッ…」

早朝、空が明るくなってくると、ねぐらの中からトキの短い鳴き声が聞こえてきます。最初は1羽だけが鳴いていますが、段々と同じねぐらにいる他のトキも「コッ、コッ」と鳴き始めます。そして、複数のトキが同時に鳴き出すと、「コアッ、コアッ」という鳴き声に変わり、ねぐらから飛び出します。1羽が飛び出すと、後を追うように他の個体も鳴きながら飛び立ちます。



ねぐら出する2羽のトキ

2. 威嚇・警戒の鳴き声：「ター！ター！」



鳴くトキ

大きくくちばしを開いて鋭く鳴く声は、何かに警戒したり威嚇したりしている声です。厳しい野生下の環境を生き抜くため、時にはトキ同士や他の動物と争うこともあります。そんな時に「自分は強いぞ」「それ以上近付いたら攻撃するぞ」という意思を示すために、相手にぶつけるように「ター！ター！」と大きな声で何度も鳴きます。

姿だけでなく、鳴き声からもトキの行動が見えてきます。トキの鳴き声が聞こえてきたら、どんな意味が込められた鳴き声なのか、ぜひ想像してみてください。

トピック ～トキが集まる営巣林～



前年に無事ヒナを巣立たせ、繁殖に成功したペアは、翌年も同じ場所に巣を作る傾向にあります。では、繁殖に失敗してしまったペアはどうするのでしょうか？

同じ場所での繁殖に再挑戦するペアもありますが、繁殖成功したペアの巣がある林に営巣場所を移すペアが多く見られます。3ペア、4ペアが一箇所の林に集まることも珍しくありません。

自分たちは繁殖がうまくいかず、別の場所に巣を作ったペアはヒナを巣立たせている…となれば、その場所に巣を作れば自分たちもうまくいくはず！と考えるのは、自然なことなのかもしれません。

しかし、一箇所に巣が密集すると、そのことが原因で繁殖に失敗してしまうことがあります。トキの巣同士が近くなることで、お互いに威嚇しあってストレスを与えてしまったり、テンヤカラスといった天敵に見つかりやすくなってしまったりと、繁殖に悪影響が出る事例が確認されているのです。

野生下のトキの個体数が回復したからこそ見えてきた課題。現在はハードリリースによりトキの生息域の拡大を促すことで、密集を防ぐ試みをしています。今年の繁殖期はどうなるのか、引き続き見守っていきます。



トキの出張講座を行いました

1月25日に新穂行政サービスセンターで開催された、佐渡市行谷地区の魅力を学ぶイベント「行谷のこと♪知らNight」で、トキの生態やトキ野生復帰事業についてお話ししました。当日は、同地区の歴史や産業について授業形式で講義が行われ、約30名が参加しました。最後にはテストも用意され、皆さん真剣な表情でテストに挑戦されていました。



トキ関連ニュース



～2月9日 新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里で洋洋の剥製と骨格標本を公開中です。
2月14日 第26回トキ野生復帰検討会を開催します。

トキの
みかた

- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。





トキかわら版



環境省
Ministry of the Environment

佐渡自然保護官事務所
TEL : 0259-22-3372

令和7年3月3日・第150号

春日和が訪れたと思いきや真冬に逆戻り、を繰り返す佐渡の今日この頃。巣づくりを控えるトキたちは、巣材の枝を運ぶタイミングを慎重に見計らっているようです。



石川県能登地域でトキ放鳥 令和8年度

2月14日に開催した第26回トキ野生復帰検討会において、石川県及び9市町におけるトキ野生復帰に向けた各種取組が評価され、また同地域における放鳥及びモニタリング計画が了承されました。これを受けて、令和8年度上半期中を目途に石川県能登地域にてトキを放鳥することを決定しました。

POINT 石川県は、令和4年8月に環境省より「将来的なトキの野生復帰を目指し環境整備を進める地域」に選定され、放鳥候補地として取組が進められてきました。

同地域では、「トキ放鳥推進モデル地区」の設置をはじめとした生息環境整備、普及啓発や環境教育、取組推進のための協議会の発足など、トキの野生復帰に向けた環境創出のために様々な取組がなされてきました。

また、石川県が今年度を実施した調査では、能登地域の餌生物量は、放鳥開始前の佐渡の状況と比較しても遜色ないことが確認されました。



飛翔するNo.547（第31回放鳥個体）



仮設ケージからのソフトリリース
（第31回放鳥）

放鳥計画では、1回の放鳥羽数は最大20羽、放鳥方法は第31回放鳥で実施した仮設ケージからのソフトリリースとすることを原則とし、ハードリリースでの放鳥も併用可能としています。放鳥場所は今後検討され、今年7月頃までに決定される予定です。

本州では初となるトキの放鳥実現に向け、関係機関と連携しながら着実に準備を進めていきます。

本州におけるトキの放鳥の方針や、野生復帰に向けた確認事項、石川県の取組などの詳細は、野生復帰検討会の資料に掲載しています。各資料は、関東地方環境事務所のホームページよりご覧いただけます。

<https://kanto.env.go.jp/wildlife/mat/tokihogozousyoku.html>

読み取りは
こちら▶▶



トキ関連ニュース

- 2月14日 第26回トキ野生復帰検討会を開催しました。
- 2月21日 第12回分散飼育地等連絡会議を開催しました。
- 2月25日 人事院総裁賞授与式に出席しました。
- 2月26日 天皇皇后両陛下に御接見を賜りました。



野生復帰検討会の様子

人事院総裁賞を受賞しました！

佐渡自然保護官事務所が、令和6年度（第37回）人事院総裁賞を受賞しました。長年のトキ野生復帰に向けた取組により、野生のトキの個体数を500羽を超えるまでに回復させ、日本の自然環境保全に貢献したことが評価されました。2月25日に東京都内で授与式が行われ、翌26日には皇居において天皇皇后両陛下に御接見を賜りました。



植田自然環境局長(右)と篠崎首席自然保護官(左)

人事院総裁賞（じんじいんそうさいしょう）とは？

長年にわたる地道な活動や高いモチベーションの下での勇気ある行動などを通じ、行政サービスや国民生活の向上に顕著な功績を挙げ、国民の期待に応えた国家公務員を表彰するもので、昭和63年に創設されました。



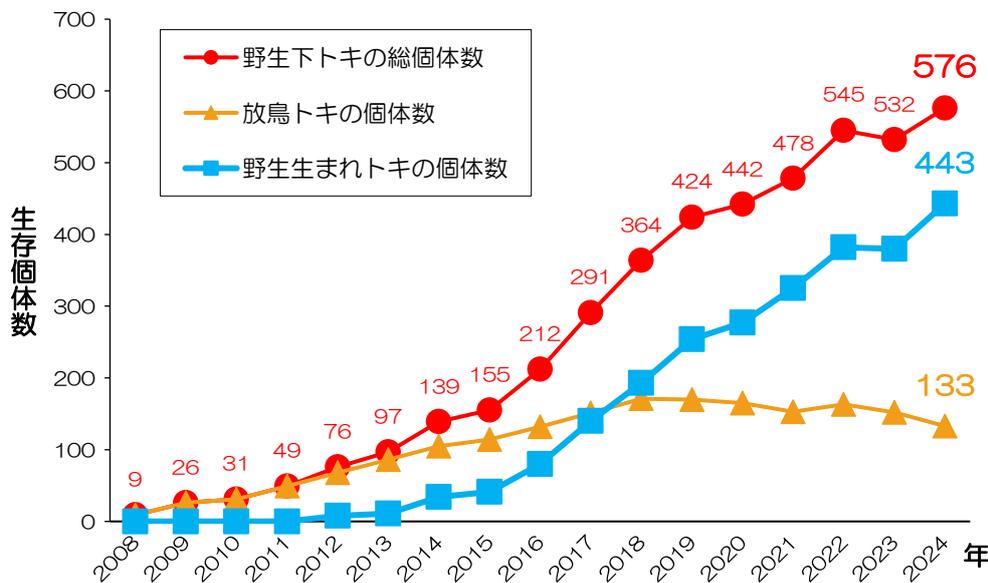
授与式の様子

トキ野生復帰事業は、地域の皆さまをはじめ、新潟県、佐渡市、有識者の方々、その他関係する多くの皆さまのご協力のもとに成り立っています。この栄誉ある賞は、今まで携わってこられた多くの方々の努力も合わせて評価されたものと受け取っています。今後も佐渡、そして本州での取組においても、頂いた賞に恥じない成果を上げられるよう尽力していきます。

2024年末時点の推定個体数を公表しました

2024年12月末時点の野外に生息するトキの個体数の推定を行いました。この結果、野外には576羽のトキが生息していると推定されました。放鳥個体は2018年をピークに減少傾向である一方、野生生まれ個体は増加傾向となりました。総個体数は、微減となった昨年に対し、今年はずかですが増加しました。

また、推定個体数と同時に2024年の繁殖結果の推定値も公表しました。2024年は185ペアが営巣、うち59ペアから129羽のヒナが巣立たと推定されました。巣立ち率は過去2番目に低かった昨年度から上昇し、4年ぶりに30%以上を達成しました。



トキの
みかた

- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。





トキかわら版



環境省
Ministry of the Environment

佐渡自然保護官事務所
TEL : 0259-22-3372

令和7年4月1日・第151号

木々や田んぼの畦が花に彩られ、春の訪れを感じる日々です。野生下ではトキの営巣と抱卵が確認されました。期待と少しの不安を胸に、今年も繁殖期に挑みます。

佐渡島内のトキの動き (2025年3月)



今期初の営巣と抱卵を確認しました！

3月17日に佐和田地区で、野生下のトキにおける今期初の営巣を確認しました。更に19日には真野地区で今期初の抱卵を確認しました。初抱卵を確認したのはNo.448と足環の無い個体のペアで、昨年も真野地区周辺で繁殖行動をしていましたが、最終的には失敗してしまいました。今年こそは元気なヒナの姿を見られるか、期待が高まります。

3月28日時点で15の巣が確認されており、うち4巣で卵が生まれています。



巣の上で抱卵するNo.448

目撃情報 求む！



トキの繁殖状況を調査するため、現在トキの巣を探しています。皆さまの周りで、よくトキの鳴き声をする、トキが頻繁に出入りしている、といった林がありましたら、ぜひ情報をお寄せください。皆さまからの情報が、巣を見つける重要な手掛かりになります。

目撃情報はこちらまで！



フリーダイヤル

0120-980-551



インターネット

トキ目撃情報



第32回放鳥に向けた順化訓練開始！



順化ケージにリリースされるNo.563

第32回放鳥に向け、3月11日に放鳥候補個体の順化訓練を開始しました。今回の訓練個体は1歳のトキ10羽で、個体識別のための足環の装着と羽への着色をした後、午前10時20分頃に順化ケージにリリースしました。これから約3ヶ月間訓練を行い、飛翔力や餌を探す力、群れの中での社会性など、野外で生きていくために必要な力を身につけていきます。放鳥は5月下旬を予定しています。

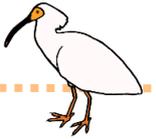
なお、順化ケージの改修工事のため、今年度の放鳥は第32回放鳥の1回のみとなります。

新潟大学・永田教授の最終講義が行われました



3月8日に、新潟大学佐渡自然共生科学センターシンポジウム2025「野生鳥類の再導入」が開催され、同センター所長であり、野外のトキのモニタリングに長年取り組まれてきた永田尚志教授の退官記念最終講義が行われました。

シンポジウムでは、日本野鳥の会参与の金井裕氏、兵庫県立大学の内藤和明教授から話題提供があり、各講演後には佐渡とき保護会会長の土屋正起氏も登壇され、今後の野生復帰事業の展望などについてパネルディスカッションが行われました。



トピック ～遺伝的多様性を高めるために～

2018年に中国より2羽のトキ、オスの楼楼（ロウロウ）とメスの関関（グワングワン）が提供されました。この2羽の子孫は2022年より放鳥されており、現在18羽が野外で暮らしています。野生下のトキの遺伝的多様性を高めるためには、新たに日本にやってきた楼楼と関関の子孫たちが野生下で繁殖することが重要です。一方で、この子孫たちが放鳥後にヒナを巣立たせた事例は、これまで確認できていません。



昨年の繁殖期には、関関の孫にあたるNo.505（出雲生まれ、2023年放鳥）が産卵しましたが、途中で失敗してしまいました。No.505は、今年も野生生まれのトキとペアで行動している様子が見られており、今年こそ繁殖成功することへの期待が高まります。

佐渡自然保護官事務所からのお知らせ



2023年6月より佐渡自然保護官事務所で勤務しておりました首席自然保護官の篠崎さえかが、4月1日をもちまして釧路市に異動となりました。

● 篠崎よりごあいさつ

異動のため佐渡島を離れることになりました。1年9ヶ月と短い期間でしたが、トキの分散化や本州での放鳥に向けて、新たな取り組みを皆様と取り組むことができたかと考えております。皆様には大変お世話になりました。ありがとうございます。新天地でトキの飛来を心待ちにしております。



- ① トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ② 地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③ 車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④ 大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤ 繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。





トキかわら版



環境省
Ministry of the Environment

佐渡自然保護官事務所
TEL : 0259-22-3372

令和7年5月1日・第152号

田んぼに水が張られ、水面に餌を探すトキの姿が映し出されています。繁殖期も中盤を迎え、トキたちは抱卵して餌を探して巣材を集めて…と毎日大忙しな様子です。

佐渡島内のトキの動き (2025年4月)



今年も野生下でヒナ誕生！



親鳥から給餌されるヒナ (黄色丸内)

4月17日に、No.448と足環の無い個体のペアの巣において、今期初めて1羽のヒナを確認しました。このペアは、野生下で今期初めて抱卵を開始したペアであり、1ヶ月近い抱卵期間を経て無事にふ化にすることができました。また、No.448は2022年から足環の無いトキとペア行動をしていましたが、ヒナをふ化させたのは今回が初めてです。

4月30日現在、49ペアが営巣中で、うち2ペアの巣でヒナが確認されています。



トキの巣に近付かないで！

トキの巣に近付いて観察したり、撮影したりすることは、巣に居るトキにとって大きなストレスになります。それが原因で繁殖に失敗してしまうこともあります。年に一度の大切な時期です。もし巣を見つけても、無事にヒナが巣立てるよう、巣への接近はご遠慮ください。



飼育下でもヒナ続々

飼育施設でもトキのヒナが続々と誕生しています。4月22日時点で、佐渡島内では佐渡トキ保護センターで5羽、野生復帰ステーションで7羽がふ化しました。飼育施設全体では26羽がふ化し、全国の分散飼育施設ですくすくと育っています。



野生復帰ステーションで育つ
3羽のヒナと親鳥

本州でのトキの動き

4月上旬、新潟県五泉市にトキが飛来しました。また、長岡市からもトキの目撃情報が届いています。

2008年の第1回放鳥以降、本州からは6,000件を超える目撃情報が寄せられています。あなたの町にもトキが訪れるかもしれません。もし本州でトキを見かけたら、ぜひ目撃情報をお寄せください。

トキ目撃情報
メールフォーム



トピック ～終わりなき天敵との戦い～

卵を産んでからヒナが巣立つまでの間、巣から離れられないトキたちは常に天敵の脅威にさらされます。佐渡島内では、主に親鳥を狙うノスリやハヤブサといった猛禽類、卵やヒナを狙うテンとカラスなどが、繁殖期中のトキの天敵です。

とあるペアは毎年同じ場所に巣を作っていますが、その周囲にはカラスが多く生息しており、ヒナを食べようと狙うカラスとトキの親鳥が毎年熾烈な戦いを繰り返しています。このペアは、過去に一度はヒナを巣立たせることに成功したものの、一昨年と昨年は卵のふ化後にカラスに襲われ、巣立ちに至ることはできませんでした。



また、多くのペアが巣を作っている林（集団営巣地）では、ある日突然ほとんどのペアが巣を放棄していなくなってしまう事態が発生しました。原因は定かではありませんが、テンなどの天敵が営巣地内に入り込んだ可能性が高いと推測しています。



弱肉強食の野生下では、トキやそのヒナが食べられてしまうのも自然の摂理です。しかし、個体数が十分ではない今の状況では、一羽でも多くのヒナを巣立たせることが重要です。そこで環境省では、トキが営巣している木の幹にポリカーボネート製の板を巻き付け、テンが登れないよう対策を行っています。

トキと、トキの天敵となる動物たちとの命をかけた攻防は、これからも続いていきます。



佐渡自然保護官事務所からのお知らせ

4月1日付けで、新しい首席自然保護官として 北橋 隆史（きたはし たかし）が着任しました。

● 北橋よりごあいさつ



以前、達者の新潟大学臨海実験所に勤めていました。再び佐渡に戻り、今度はトキの野生復帰事業や、人とトキが共生する地域づくりを、地域の皆様と一緒に進めていけることにワクワクしています。よろしくお願いします。

トキ関連ニュース

- 4月11日 行谷小学校の「トキの話を聞く会」に講師として参加しました。
- 4月14日 佐渡中等教育学校の1年生が野生復帰ステーションを見学しました。
- 4月25日 新穂中学校の1年生がトキのテラスを見学しました。



- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。





トキかわら版



環境省
Ministry of the Environment

佐渡自然保護官事務所
TEL: 0259-22-3372

令和7年6月2日・第153号

トビシマカンゾウやイワユリが島を彩る季節になりました。繁殖期も終盤に差し掛かり、飼育、野生ともにトキのヒナが巣立ち始めています。

佐渡島内のトキの動き (2025年5月)



第32回トキ放鳥を実施しました！



放鳥箱から飛び立つNo.555と557



飛翔するNo.557



放鳥箱から飛び立つNo.561

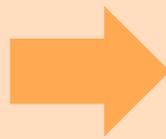
5月28日に、佐渡市椎泊地区で第32回放鳥ハードリリースを実施しました。椎泊地区の棚田は、野生絶滅以前にトキが採餌場所として利用していた場所の1つです。今回は4羽のトキが、椎泊地区や河崎小学校、行谷小学校の代表者の方々の手で放鳥され、総勢100名以上が見守る中で初夏の青空へ飛び立ちました。また、来年実施される石川県での放鳥に向け、いしかわ動物園から3名が来島され、準備から放鳥に至るまでの作業に参加いただきました。



野生下でヒナ巣立ち！今期初確認



足環装着時の様子



巣から出たNo.E56(右)と
巣に留まるNo.E55(左)

5月23日に、野生下で生まれたヒナの今期初の巣立ちを確認しました。巣立ちしたのはNo.448と足環の無い個体のペアのヒナで、今期最初に野生下でふ化を確認したヒナです。5月上旬に個体識別のための足環(No.E55,E56)を装着しました。

5月29日時点で、96ペアのトキが繁殖に参加し、51羽のヒナがふ化したことを確認しています。

トピック ～自然繁殖への挑戦～

飼育下での繁殖というと、人がヒナに餌を与える様子を想像する方が多いのではないのでしょうか。1999年に国内で初めて飼育下での繁殖に成功して以降、日本のトキは、人の手でヒナを育てる人工育雛（じんこういくすう）により数を増やしてきました。一方、親鳥が自らヒナを育てる自然育雛（しぜんいくすう）で育ったトキの方が放鳥された後の生存率が高いことがわかってきたため、近年では飼育下でも積極的に自然育雛に取り組んでいます。

しかし、自然育雛もなかなか一筋縄ではいきません。親鳥が餌を与えない、または与えても量が足りなかったり、ヒナに羽づくろいをし過ぎて出血させてしまったり、親鳥同士でケンカを始めてしまい育雛どころではなくなったりと、様々なトラブルが発生します。そんな場合は飼育員が手助けすることもあります。介入はできる限り最小限としています。また、親鳥が育雛できない場合に、ヒナを別のペア（仮親）に託して育ててもらうこともあります。

親鳥に見守られ、きょうだいと共に育った飼育下のヒナたちは、現在続々と巣立ちを迎えています。



人工育雛されるヒナ



ヒナ2羽と仮親



巣の中で羽ばたく練習をするヒナ



佐渡自然保護官事務所からのお知らせ

2023年4月よりトキかわら版の作成を担当しておりました、自然保護官の小竹佳穂（こたけ かほ）が、6月1日をもちまして異動となりました。7月号からは、後任の生亀嘉奈子（いきかめ かなこ）が担当します。

●小竹よりごあいさつ

いつもトキかわら版を読んでいただき、ありがとうございました！拙い文章ではありましたが、少しでもトキに興味を持っていただけていたら嬉しいです。

トキの舞う、豊かで美しい佐渡島の風景がいつまでも続いていくこと、そして今度は本州の空を舞うトキの姿が見られることを、心から願っています。

トキ関連ニュース

5月22日 日本自然環境専門学校が、野生復帰ステーションを見学しました。

5月28日 第32回トキ放鳥ハードリリースを実施しました。

6月4日 第32回トキ放鳥ソフトリリースを実施します。



トキの
みかた

- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。





トキかわら版



環境省
Ministry of the Environment

佐渡自然保護官事務所
TEL: 0259-22-3372

令和7年7月1日・第154号

梅雨に入り、佐渡島内は様々な色のアジサイで彩られています。今年生まれたトキたちも続々と巣立ちし、水田などの餌場では親にねだりつつも自分で餌をとる姿が見られています。

佐渡島内のトキの動き (2025年6月)



第32回トキ放鳥 (ソフトリリース) が終了しました!

6月4日～7日に、野生復帰ステーション順化ケージからソフトリリース方式で5羽のトキを放鳥し、第32回放鳥が終了しました。初日に1羽、2日目に2羽、3日目は風が影響したのか飛び立たなかったものの、4日目に無事残りの2羽が飛び立ちました。

今回ソフトリリースで放鳥したうちの1羽 (No.556) は、6月27日に水田で採餌をしている姿が見られました。訓練の約3か月で身に着けた社会性を活かし、野生下でも他のトキたちと仲良く暮らしているようです。



順化ケージから飛び立つNo559. とNo562.



順化ケージから飛び立つNo.556

野生下トキの繁殖状況

繁殖期が終盤に差し掛かり、島内の各巣でヒナが巣立っています。6月26日時点で65羽のふ化が確認され、内32羽は巣立ちまで確認されています。

中には田んぼでの採餌デビューを果たした幼鳥も見られています。ザリガニをゲットしている姿が大変頼もしく、今後の成長が楽しみです。



ザリガニを口にくわえるE55



E55,E56とお父さんの448

トピック ～トキの成鳥と幼鳥の見分け方～

ついこの間ふ化したかと思えた幼鳥がどんどん成長し、遠目では大人と変わらないほど立派に育っています。巣立ったばかりの今しか見られない幼鳥の見分けポイントをご紹介します。



成鳥



幼鳥



●顔、眼の色

成鳥：赤色の顔、オレンジ色の眼

幼鳥：オレンジ色の顔、灰色の眼

●羽の色

成鳥：鮮やかなとき色

幼鳥：薄いとき色

翼の一番外側に黒色が残る個体も

●冠羽、くちばしの長さ

成鳥と比べ、幼鳥の方が短い。

佐渡自然保護官事務所からのお知らせ

6月より新しい自然保護官として生亀嘉奈子（いきかめかなこ）が着任しました。

●生亀よりごあいさつ

引っ越してきて最初の週末、トビシマカンゾウがちょうど見ごろを迎えていて、とっても幸せな気持ちで新生活をスタートすることができました。

モニタリングに行くと地域の皆様が温かく接して下さり、共にトキの野生復帰に携われることを大変嬉しく思っています。勉強しつつ早く貢献できるよう頑張って参りますので、どうぞよろしく願いいたします！



トキ関連ニュース

6月4～7日 第32回トキ放鳥ソフトリリースを実施しました。

6月10日 行谷小学校水辺の生き物調べに参加しました。

6月13日 能登GIAHS生物多様性ワーキンググループが野生復帰ステーションを見学しました。





トキかわら版



環境省
Ministry of the Environment

佐渡自然保護官事務所
TEL : 0259-22-3372

令和7年8月1日・第155号

各地で記録的な猛暑日が続きますね。佐渡でも暑い日が続いており、暑さが苦手なトキは日中あまり林内から出てきません。熱中症対策を忘れずに、暑い夏を乗り切りましょう。

佐渡島内のトキの動き (2025年7月)



野生下トキ繁殖期終了 ヒナ40羽が巣立ちました！

7月30日に、2025年の野生下のトキの繁殖結果速報値を公表しました。モニタリングの結果、33組のペアから66羽のヒナが誕生し、うち40羽が巣立ったことが確認されました。

幼鳥はこれまで過ごしていた巣から離れ、自ら餌を捕ろうと日々奮闘しています。早くも独り立ちし単独で行動をする幼鳥が見られる一方で、まだ甘えたいのか親鳥の後ろを追いかけて餌ごいをする様子や、水田の畔で親鳥と一緒に一生懸命に餌を探している様子も見られます。



水田を飛翔する幼鳥



餌ごいをする幼鳥 (左)

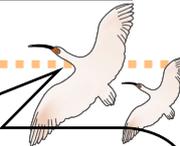


成鳥3羽と共に探餌する幼鳥 (中央手前)

トキのねぐらを探索中です



ねぐらって
なあに？



一般的には鳥の寝床のことで、夜の間眠ったり休んだりする場所だよ！トキは主に林をねぐらにしている、日の出とともに水田などの餌場へ出て餌を食べ、夕方にまたねぐらに戻って睡眠・休息をとるんだ。大きな群れで同じ場所にねぐらをとることもあり、最大で150羽以上が一緒に入っていることもあるよ。

環境省では、毎年9月に明け方にねぐらから出てくるトキの羽数をカウントする「ねぐら出—斉カウント調査」を実施しています。佐渡島内のトキの個体数を把握するために、調査に向けトキのねぐら探しを強化中です！皆様のお家や職場の近くで、「明け方や夕方にトキの鳴き声がある」「トキがよく集まっている」木や林はありませんか？もしかしたら、そこはトキのねぐらかもしれません。皆様からの情報がねぐら探しの貴重な手がかりになります。もし心当たりがありましたら、**情報**をお寄せください！



お電話で

トキ目撃情報フリーダイヤル
0120-980-551

「ねぐらの情報
です」とお伝え
ください



インターネットで

トキ目撃情報



必要事項に加え、
「その他」欄に
「ねぐら」と入力
ください

第32回放鳥トキのその後

5月28日に佐渡市椎泊にて4羽のトキをハードリリースし、6月4日～7日に野生復帰ステーションから5羽のトキをソフトリリースしました。3カ月の順化訓練を経て野生下に飛び立った放鳥トキの、その後の様子を追ってみましょう。

椎泊で放鳥してから約1か月後の6月27日、No.561が新穂にて観察されました。野生下で生まれた足環のないトキ2羽とアオサギとともに、畔で仲良く採餌していました。

ソフトリリースで順化ケージ（新穂）より放鳥したNo.562は、7月7日に放鳥地からおよそ15km離れた羽茂で観察されました。野生下で生まれた他の仲間と合流し、餌場に向かっていたものと思われる。

他の放鳥個体についても、両尾や、水津、小倉などで野生下のトキの群れに合流し、とまり木で休息したり水田で採餌したりする元気な姿が確認されています。これから更に他のトキ達との交流が深まり、2歳になる来年は繁殖に参加してくれることを期待しつつ、今後も様子を見守っていきます。



No.561が仲良く採餌する様子（中央）



飛翔するNo.562

トピック ～本州初のトキ放鳥場所が決定～



7月16日（水）の能登地域トキ放鳥受入推進協議会で、本州初となるトキ放鳥場所が石川県能登地域の羽咋市南潟地区に決定しました。石川県能登地域は、トキの本州最後の生息地であり、これまでもトキの生息環境の保全・再生の取り組みを行ってきました。来年の初夏、トキの群れが半世紀ぶりに能登の大空を舞います。



トキ関連ニュース

- 7月16日 能登地域トキ放鳥受入推進協議会で本州でのトキ放鳥地が決定しました。
- 7月24日 人・トキの共生の島づくり協議会 総会が開催されました。
- 7月25日 石川県農林水産部が野生復帰ステーションを見学しました。





トキかわら版



環境省
Ministry of the Environment

佐渡自然保護官事務所
TEL : 0259-22-3372

令和7年9月1日・第156号



ようやく朝晩は涼しさを感じるようになりました。佐渡島内では徐々に稲刈りシーズンに入っており、稲刈り後の水田などにトキたちが集まっている様子も見られています。

佐渡島内のトキの動き（2025年8月）



繁殖期が終わり、群れでの行動が多く見られます。

トキは繁殖期が終了すると、巣がある林を中心としたペア・家族での生活から、広く餌場が広がっている平野周辺での群れ生活に変化していきます。稲刈り後の水田や草地、ビオトープ等で集団で採餌している様子や、同じとまり木に集まって休んでる様子、群れを成して飛翔している様子などが見られます。群れで行動する理由は、集団になることで天敵から身を守る、効率よく餌場を探ることができるからと言われています。秋～冬にかけて今後さらに群れが大きくなることに加え、稲刈り後の見通しの良い田んぼでよく見られることから、トキの観察がしやすいシーズンとなります。



草地で採餌する22羽



とまり木で休息する16羽



採餌場付近を飛ぶ集団

トキを観察するトキは...やさしい見方でトキの味方になろう！

トキは臆病な性格です。人が近づくと驚いて飛び立ち、逃げてしまいます。こうなるとせっかくトキを見かけてもじっくり見ることができませんし、トキも十分に餌をとれなくなってしまいます。

そこで環境省では、トキ観察時のポイントをまとめた「**トキのみかた**」を発行しています。次のようなやさしい見方でトキの味方になり、これからも人とトキがともに暮らせるよう、ご協力をお願いします。



▲トキのみかた



こちらからご覧下さい

- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。

トキのみかた ③の例外として、車から降りてトキが観察できる「**トキのみかた停留所**」が島内2か所に設けられているよ。新穂潟上の「**トキ交流会館**」新穂青木の「**田んぼアート**」に停留所が設置されているよ。この2か所と「**トキのテラス**」以外の場所で僕達を見かけたら、車の中から見守ってね。



第27回野生復帰検討会が開催されました



8月26日（火）に石川県金沢市で第27回トキ野生復帰検討会が開催されました。検討委員の方々に専門的な立場から御助言いただき、トキの野生復帰を円滑に進めることを目的とした会で、年に2回開催されています。飼育個体の今年度の繁殖結果および次年度の繁殖計画、トキ野生復帰ロードマップ2025の暫定評価と次期ロードマップ案について検討された後に、トキ放鳥を目指している島根県出雲市でのエサ資源量調査の中間結果や、来年放鳥を行う石川県能登地域での放鳥場所などの報告がありました。環境省が発表した次期ロードマップ（トキ野生復帰ロードマップ2030）案では、2030年度までの短期的な目標として、「本州等でトキが定着し、繁殖するようになること」や、「佐渡の野生下のトキが過密にならず、遺伝的多様性を維持しながら存続すること」などを示しました。トキ野生復帰ロードマップ2030は、今回の検討会での意見等を踏まえて年度内に正式に策定し、公表することとしています。

第27回野生復帰検討会
資料はこちらから▶



不定期コーナー トキ深掘りエピソード

佐渡自然保護官事務所では、放鳥個体に加え、野生下で生まれたトキのヒナに毎年30羽を目標に足環を装着しています。個体識別された個体の行動をモニタリングすることで、野生下のトキの動態を把握・推定することができ、より良いトキ野生復帰の取組みにするため活用しています。このコーナーでは、日々のモニタリングで各個体の様子を追うからこそ見えてくるトキの面白い行動やトキ同士の関係性について、不定期にご紹介していきます。このコーナーを通して、トキについてさらに知っていただくとともに、親しみを感じていただければと思います。

いつまでも完成しないジェンガの巣、その行く末は…

3月某日、NR(♂・足環なし)とB26(♀・8歳)が仲良くペアで行動している姿が確認され、その1か月後には巣材を運んで2羽で巣作りをしている姿が見られていました。このまま順調に巣が完成し、産卵することを期待しつつ観察を続けていましたが、一向に巣は大きくなりません。よく見てみると、オスのNRが作成途中の巣の下方から枝を引き抜き、メスのB26がその枝を受け取って巣の上方に積み上げています。まるでジェンガで遊んでいるような様子で、いつまでも巣は完成しません。

そうこうしている内に別のペアがやって来て、巣を横取りされてしまいました。その後も様々なペアが巣作りを再開したり、試しに使ったりしてみるも、最終的にNR×B26ペアが作成したジェンガの巣からヒナが巣立つことはなく、繁殖期を終えてしまいました。



ジェンガの巣を整築するB26

なかなか完成しないなあ。下から枝を引っっこ抜かないで、新しい枝を運んできて欲しいなあ。

- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。





トキかわら版



環境省
Ministry of the Environment

佐渡自然保護官事務所
TEL : 0259-22-3372

令和7年10月1日・第157号

ひんやりとした空気と黄金の絨毯から、秋の訪れを感じる季節となりました。稲刈りも進み、刈田にはトキの他にもカラスやサギ、トンビなどが集まっています。

佐渡島内のトキの動き（2025年9月）



羽の生え換わりが進み、徐々に羽全体が鮮やかなとき色になってきています。稲刈りを終えた刈田では集団で採餌している姿も見られ、トキの観察がしやすいシーズンを迎えています。夏頃に独り立ちした幼鳥は、餌を獲るのも飛ぶのも一段と上手になり、遠目では成鳥と遜色ないほど逞しく育っています。



水田の上を飛翔する様子



刈田で採餌する7羽



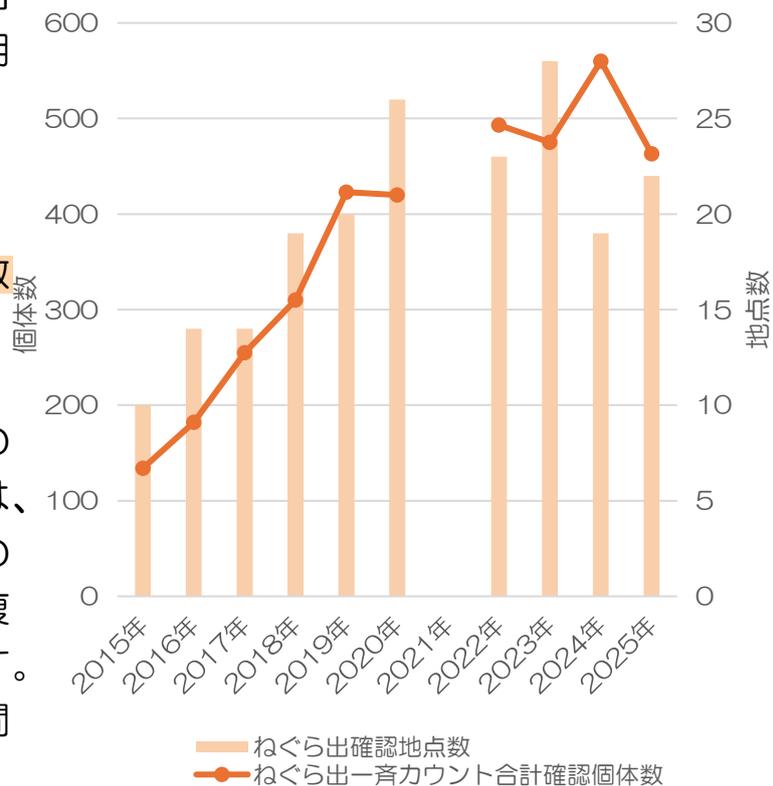
飛翔する今年生まれのE75

トピック ねぐら出一斉カウント調査を実施しました

9月9日から11日の3日間で、佐渡島内のトキの生息個体数を調べる「ねぐら出一斉カウント調査」を実施しました。早朝に佐渡島内50か所のねぐらから飛び立つトキの数を調査した結果、22か所のねぐらで合計463羽のトキを確認しました。

今回の調査で確認したトキの合計個体数（トキの数）は、昨年の調査結果よりも100羽ほど減少しました。ねぐら出を確認した地点数（ねぐらの数）は例年並みの結果となりました。調査で得られた情報は、トキの推定個体数の算出および佐渡島内の分布の把握に重要なデータとなり、野生復帰の取り組み方針の検討等に活用されます。

市民ボランティアの皆様を含め、3日間で延べ110名で実施しました。早朝からご協力いただきありがとうございました！



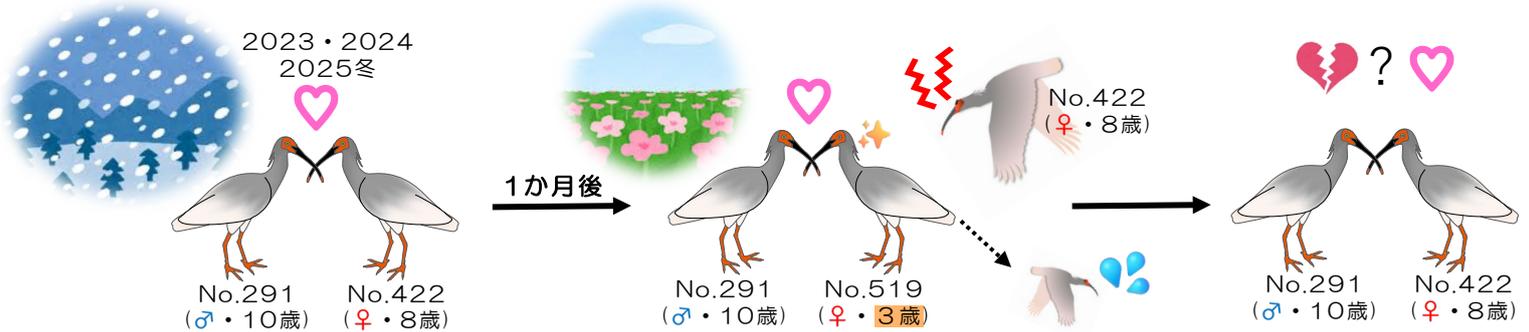
不定期コーナー トキ深堀りエピソード

佐渡自然保護官事務所では、野生下トキの動態を把握・推定するために、放鳥個体+野生下で生まれたトキのヒナに足環を装着し、個体識別をしています。このコーナーでは、各個体の行動を追うからこそ見えてくる、トキの面白い行動やトキ同士の関係性について不定期にご紹介します。トキについてさらに知っていただくとともに、親しみを感じていただければと思います！

トキの複雑な恋愛事情～No.291(♂・9歳)×No.422(♀・7歳)とNo.519(♀・3歳)～

2023年度に1羽を巣立たせ、昨年度の繁殖期は卵を温める姿が見られたものの、残念ながら孵化に至らなかったNo.291(♂・10歳)×No.422(♀・8歳)ペア。今年度の繁殖期を迎える頃にも互いに羽繕いをしたり、疑交尾をしたりする仲睦まじい姿を見ることができ、今年こそは2年ぶりに困難を乗り越え順調にヒナを育てあげることが期待し、観察を続けていました。

ところが、それから1か月が経った頃、No.291の隣には、若いメスのNo.519(3歳)の姿が・・・！共に巣作りしている姿も確認され、このままNo.291とNo.519で繁殖期を過ごすかと思われましたが、2羽のもとに突如No.422が怒った様子で飛来しました。その瞬間、No.519は一目散に逃げていき、No.291は気まずそうにしながらNo.422の隣にいたものの、重い空気に耐えきれなくなったのかこちらにも飛び去ってしまいました。その1か月後、No.519は足環なしのオスと繁殖行動している姿が見られましたが、No.291とNo.422の行方は掴めなくなってしまいました。No.291×No.422ペアは喧嘩別れしてしまったのでしょうか？



繁殖期が終盤に差し掛かったころ、ある営巣地でそれまで把握されていなかった生後1週間程度のヒナ2羽の姿が目撃され、その後の調査で親がNo.291×No.422ペアであることが判明しました！ヒナはそのまま順調に育ち、夏を迎える頃には2羽とも元気に巣立っていきました。トキの世界の複雑な恋愛模様が垣間見えたエピソードでした。

トキ関連ニュース

- 9月9日～11日 ねぐら出—斉カウント調査を行いました。
- 9月18日 新穂小学校で出前授業を行いました。
- 9月24日 長野大学の学生が野生復帰ステーションを見学しました。
- 9月29日 秋田県立大学の学生が野生復帰ステーションを見学しました。
- 9月30日～10月2日 出雲市と石川県の関係者とモニタリング研修を行いました。





トキかわら版



環境省
Ministry of the Environment

佐渡自然保護官事務所
TEL : 0259-22-3372

令和7年11月4日・第158号

島内最高峰の金北山（1172m）が中腹まで色づいています。朝晩は冷え込み、少しずつ冬の気配も感じられる佐渡島です。



佐渡島内のトキの動き（2025年10月）

全身の羽が生え換わり、トキ色が最も鮮やかな時期になりました。繁殖期の首から背中にかけての黒い羽根はすっかりなくなり、二番穂が出ている田んぼの中を採餌していると白い体がよく目立ちます。佐渡に渡ってきた冬鳥に混ざって行動している様子もみられ、平野は様々な鳥で賑わっています。



田んぼの上を飛翔するトキと休息中のトキ



コハクチョウに混ざって休息するトキ

トピック ～分散飼育地からトキが移送されました～

10月27日～30日にかけて、分散飼育地と佐渡トキ保護センターの間でトキの移送を行いました。今年の春に島外の分散飼育地（長岡市トキ分散飼育センター、多摩動物公園、いしかわ動物園、出雲市トキ分散飼育センター）で産まれた幼鳥22羽の受け入れの他、繁殖ペアの入れ替えなどで成鳥6羽の受け入れ、成鳥7羽の引き渡しを行っています。野生復帰ステーションでは、来年度の石川県羽咋市での放鳥に向けて3月から順化訓練を開始しますが、今回受け入れた幼鳥もその候補個体となります。



2月までトキの森公園で見られるよ！

いしかわ動物園からの個体を受け入れる様子

受け入れ羽数（内 成鳥）

長岡市トキ分散飼育センター
6羽（1）

いしかわ動物園 7羽

多摩動物公園
9羽（3）

出雲市トキ分散飼育センター
6羽（2）

○○の秋、トキを知る秋にしませんか？



イベントのお知らせ



★「にいがた環境フェスティバル2025」に出展します！

佐渡自然保護官事務所では、トキクイズ・モニタリング体験など、皆さんに楽しんでいただけるような企画と展示を準備しています。また、当日は多くの企業や団体によるブース出展の他、様々な作品展示や体験企画、ステージイベントも行われます。ぜひお越しください！

日時：11月9日（日）10:00～16:00

場所：JR新潟駅 南口中央広場・ガタリウム
（CoCoLo新潟1階 吹き抜け広場）

詳細は新潟県のHPをご覧ください。

<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/kankyo/niigata-ecofes2025.html>

にいがた環境フェス2025



昨年の様子

★両津港でトキ写真展を開催します！

佐渡自然保護官事務所が日頃のモニタリング等で撮りためたトキの写真を展示させていただきます！展示する写真はすべて、トキの観察方法「トキのみかた」に沿って撮影されたものです。トキの様々な姿を見て頂くとともに、「トキのみかた」についても理解を深めていただければと思います！

日時：11月20日（木）～12月19日（金）

場所：佐渡汽船 両津港ターミナル2階



トキ関連ニュース



行谷小学校文化祭での様子

- 10月2日 新穂小学校4年生の皆さんが野生復帰ステーションを見学しました。
- 10月14日 トキどき応援団の皆さんが野生復帰ステーションを見学しました。
- 10月25日 行谷小学校の文化祭にてトキのみかたの普及啓発を行いました。
- 10月27～30日 分散飼育地と佐渡トキ保護センターの間で飼育トキの移送を行いました。
- 10月28日 トキガイド連絡協議会の皆さんと真野小学校4年生の皆さんが野生復帰ステーションを見学しました。

- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。





トキかわら版



環境省
Ministry of the Environment

佐渡自然保護官事務所
TEL : 0259-22-3372

令和7年12月1日・第159号

11月20日、大佐渡山地での初冠雪を確認しました。「雪おろし・雪おこし」と呼ばれる雷が鳴る日も多く、着々と冬の気配が近づいてきています。



佐渡島内のトキの動き (2025年11月)



No.不明の個体を探しています

木々はすっかり葉を落とし、トキがとまり木で休んでいる様子が観察しやすい季節です。葉が無くなったことで足環が確認しやすく、また雨が頻繁に降るため、泥などの汚れが落ちて足環が綺麗に見えるため、個体識別がはかどります。

そんな中、モニタリングチームはある個体の行方を数か月前から追っています。ナンバーリングが脱落し、残るカラーリングも変色していると思われる、識別が難しい個体です。何とかこの個体を再び見つけ個体番号を確定しようと、特定の地域を複数人で重点的にモニタリングする通称「お祭り」を3回行ったのですが、見つけることができませんでした。No.不明個体はどこへ行ってしまったのか、そしてその正体は誰なのでしょう。モニタリングチームの搜索&識別の日々は続きます。



落葉した木にとまるトキ



No.不明個体と足環の拡大写真



日中韓トキ自治体サミットが開催されました



11月12日に日中韓トキ自治体サミットが佐渡市で開催されました。中国、韓国及び本州でトキの野生復帰に取り組む自治体の方々が来島し、佐渡のトキ野生復帰の現場を視察したり、各地でのこれまでの取組や現状等について情報共有したりしました。

中国の陝西省洋県をはじめとする自治体での取組として、有機農業の実践、農作物の認証制度や、トキをアイコンとしたさまざまな発信についての紹介がありました。韓国の昌寧郡では、ウポ沼を拠点としたトキ野生復帰の取組の歴史や、地域住民と共に行っている餌場の創出・管理についての発表がありました。

また、サミットの締めとなる共同宣言に先立ち、来年度本州で初の放鳥を行う石川県が、トキ放鳥に向けての決意表明を行いました。

優優（ユウユウ）の死亡が確認されました

11月24日（月）午後3時10分、佐渡トキ保護センターで飼育していたトキ「優優（ユウユウ）」が26歳で亡くなりました。今年の9月に行った健康診断では特に異常がなく、11月21日（金）までは食欲も十分にあり、給餌時には職員の足元に寄ってくるなど、元気な様子が確認されていました。22日（土）に採餌量の低下と元気がない様子が見られたため経過を見守っていましたが、23日（日）の朝には職員が近寄っても動かなくなっていたため、捕獲して獣医師の手から餌を与えていました。



優優は1999年に中国から贈呈された友友（ヨウヨウ）と洋洋（ヤンヤン）の間に同年5月に生まれた子で、日本で初めてのトキ人工ふ化の成功例でもあります。最初のトキ2世として日本全国で誕生を喜ばれ、トキ野生復帰に明るい希望をもたらしてくれました。名前は、全国の小学生から公募で集められた候補から選ばれ、「優しく」「優雅に」などの意味が込められています。



翌年にパートナーとして美美（メイメイ）を中国から迎え、美美が死亡するまでの14年間で、65羽の子を巣立たせました。優優はその後も別のパートナーと22歳まで繁殖を続け、生涯で68羽の子を巣立たせており、トキの野生復帰に大きく貢献しました。



今、佐渡の野生下では優優が命を繋いだ多くの子孫が空を羽ばたいています。トキの野生復帰に明るい光をもたらし、大きく貢献してくれた優優に追悼の意を捧げるとともに、深く感謝します。

（優優の写真提供：佐渡トキ保護センター）



トキ関連ニュース

- 11月9日 にいがた環境フェスティバル2025に出展しました。
- 11月11日 第4回トキと共生する里地づくりネットワーク協議会を開催しました。
- 11月12日 日中韓トキ自治体サミットに参加しました。
- 11月17日 新潟大学で「トキをシンボルとした自然共生」の講義を行いました。
- 11月20日～ 佐渡汽船両津港ターミナル2階で「トキ写真展」を開催しています。
- 12月5日 新穂地域づくり協議会で講演を行います。

